

足立区立花保中学校
校長 村田 雅也 様

足立区立花保中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 野間 一 夫

令和7年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

今年度も、全般的に落ち着いた学校生活を送ることができた。令和8年度の入学希望者は、受け入れ可能人数95名を超え、抽選による入学者決定となった。本校の実態が保護者、地域に理解されてきた状態が継続している。近隣小学校へのPR活動やHPからの情報量がさらに増したことも評価できる。令和4年度に立ち上げたボランティア部が、地域行事の運営にボランティアとして、積極的に活動している。また、「南花畑食糧対策委員会」での取り組みとして野菜の栽培に加えて、干し柿づくりにも挑戦した。収穫量は多くはないが、計画的に活動を進め、次年度の各種野菜の栽培担当者も決まっているそうである。取り組みを改善しながら継続していくことで生徒の豊かな経験・体験となっている。地域に向けた学校行事の公開は、入学式、運動会、文化祭と無事行え、運動会・文化祭に関する生徒の参加態度や行事の完成度は今年度も素晴らしかったと地域・保護者アンケートで評価された。次年度、さらに発展した花保中を地域に公開していただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

重点的な取組事項ー1 学力向上アクションプラン

- 区学力調査の結果につき、区教育委員会から次の表のとおり示された。

学年 教科	1年			2年			3年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
目標値（区/R7）	53.7	54.9	80.8	60.0	50.8	51.3	64.8	50.3	53.1
通過率（本校/R7）	73.3	75.6	92.3	86.8	75.8	63.7	60.9	77.0	56.3

令和7年度足立区学力定着に関する総合調査「調査結果報告書」より、本校部分を抜粋

- 学校全体で区の目標値を超える成績であり、本校の生徒の努力を反映したものと見える。ただ、3年の国語科で目標値を下回っている。要因と対策を見極め、指導の改善に役立ててほしい。
- 一人一台端末が全員に配備されてから今年で5年目。朝学習、授業時間、自宅学習や欠席時のオンライン学習にも有効活用されている。教員は、それぞれの場面での活用方法を全員が概ね習得している。次年度も生徒の学習意欲が向上するよう、様々なアプリケーションを活用するための研修を進めていただきたい。
- 朝学習や放課後補充教室は全学年で取り組んでいるが、学習習慣が十分に定着していない生徒にも保護者と協働して家庭学習を定着させるとともに、「わかる」喜びと「できる」自信を生徒に体感させてほしい。

重点的な取組事項ー2 キャリア教育の充実

- 生徒質問紙調査の「学校への満足度」の項目で、肯定的な回答が81.6%（令和7年度 学校評価アンケート（生徒用）質問番号（16）「花保中学校に入学してよかったですか」より）であった。昨年の88.1%から低下はあるものの「多数の生徒が満足している」と見える結果である。次年度は学校全体として「誰一人取り残されない教育」を推進し、不満足群にいる生徒（13.8%）への人間関係や学習環境等にも焦点を当て、課題解決に向けて組織的に取り組んでいただきたい。
- 挨拶運動ではPTA・地域の方々・担当生徒が多く参加してくれている。また94%（同アンケート 質問番号（4）「挨拶、服装、持ち物などについて学校の決まりを守って生活していますか」より。昨年の同質問94%）の生徒たちが、「挨拶や学校のきまりを守ること」についてきちんと習慣化できていると回答したことは成果であり、今後も学校・地域が連携して継続して行っていく。

重点的な取組事項一 3 人権教育の充実

- ・今年度の小中連携は、年度当初の計画通り実施でき、目標は十分に達成できたと評価できる。地域の子ども達が健全に成長できるように両校で継続して努力してほしい。
- ・特別支援学校との交流では、5月の運動会交流（主にボランティア部）や12月の生徒会交流を中心に継続している。教育課程にも取り入れ、SDGsの取り組みとして実施していることが評価できる。さらに地域の様々な機関との連携・交流を進めていただきたい。

3 その他

コミュニティ・スクール設置から5年目を迎え、地域と学校・保護者の連携の在り方について考える一年となった。「地域の子ども」をみんなで育てる組織とはどのようなあり方なのか、「花保中フェスタ」や「食育体験」を実施する中で連携の在り方を考えることとなった。来年は、開かれた学校づくり協議会や学校運営協議会の役割や活動を再認識し、組織が「花保中学校の運営を支援する」ことができるよう様々な活動を推進していく。本校はコミュニティスクール（学校運営協議会）が設置されている学校である。本協議会の役員会ともいべき組織で、設置されてから今までの“花保フェスタ”や食育活動に加え、玄関アプローチの補修や“花保農園”の野菜作り、“花保ラボ”等、生徒の体験の場を広げることができるようになった。また、町会・自治会、住区センター、地区対。地少協などでのイベント活動の際に、ボランティア活動を行った証として”ボランティアパスポート（ボランティア手帳）”への記録を行っている。1年間の記録を見て、顕著な活動をした生徒に”花保フェスタ”の場で表彰状を授与している。さらに、放課後の生徒の居場所、自習教室として”OCHANOMA”を提供している。週一ではあるが、”NPO 法人カタリバ”のお兄さん、お姉さんがサポートを行っている。

これらのことが、生徒の主体的活動を高める一助となっていると思われるが、今後とも本協議会と学校運営協議会が手を携え、教職員、保護者とともに生徒の活動の支援を行っていきたい。